



Social&Environmental Report

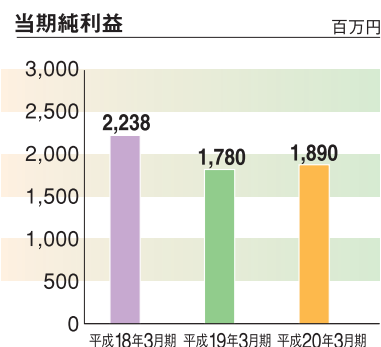
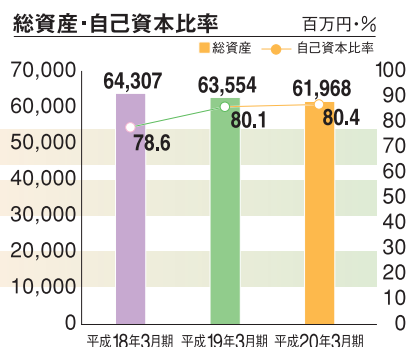
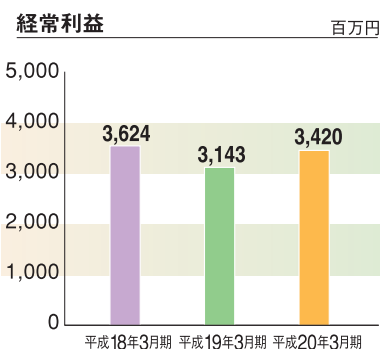
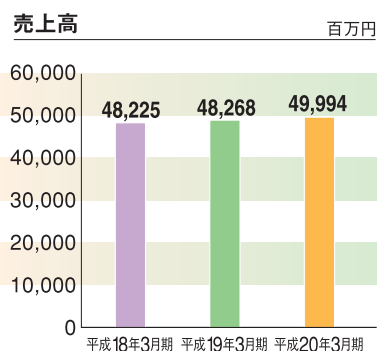
社会・環境報告書 2008



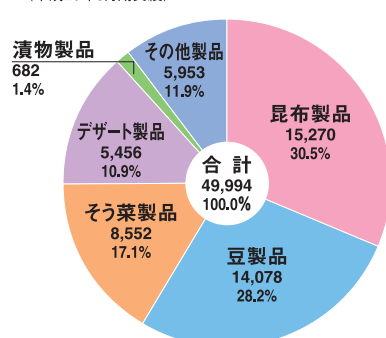
コジツ

会 社 名	フジッコ株式会社
代表取締役社長	福井 正一
本 社 所 在 地	神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
本社 電話番号	078-303-5911 (代)
事 業 内 容	昆布製品、豆製品、そう菜製品およびデザート製品等を主体とした食品加工業
創 業	昭和35年11月7日
資 本 金	65億6,653万円 (平成20年3月31日 現在)
従 業 員	2,276名 (フジッコグループ全従業員)
工 場	兵庫3、埼玉1、千葉1、神奈川1
物流センター	兵庫1、埼玉1
営 業 所	全国25拠点
連 結 子 会 社	フジコン食品 (株)、フジッコワイナリー (株)、味富士 (株)、フジッコフーズ (株)

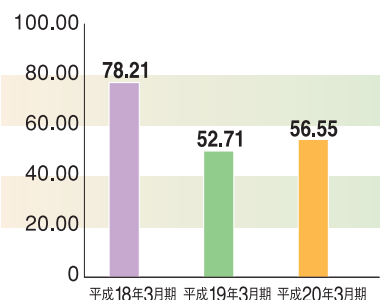
業績の推移 (連結)



製品分類別売上高 百万円・%
(平成20年3月期実績)



1株当たり当期純利益 円



(注) 平成18年4月1日付で、普通株式1株を1.2株に株式分割しております。

Contents

会社概要

目次

ごあいさつ

マネジメント方針

- コーポレートガバナンスの確立 ●————— [01]
 - ・業務執行・経営の監視
 - ・内部統制システムの整備
- コンプライアンスの徹底 ●————— [02]
 - ・フジッコグループの倫理基準

社会性報告

- 「ふじっ子だから安心」と言われ続けるために・・・ ●————— [04]
- 社会貢献活動 ●————— [06]
 - ・食育活動
 - ・昆布ミネラル国際支援
 - ・献血運動への協力
 - ・ベルマーク運動への参加
- ステークホルダーとのコミュニケーション ●————— [09]
 - ・お客様とのコミュニケーション
 - ・株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

環境報告

- 環境基本方針 ●————— [12]
 - ・環境基本理念
- 2007年度の環境管理活動の状況 ●————— [13]
 - ・環境マネジメント組織
 - ・環境目的・目標
 - ・環境目標の達成状況
 - ・新しい環境目標
 - ・環境への負荷
 - ・環境に関するご指摘

事業所による環境管理活動レポート

- 事業所による環境管理活動について ●————— [20]
- 環境保全に対する取り組みの歴史 ●————— [31]

対策範囲

【対象期間】2007年4月1日～2008年3月31日

【対象組織】フジッコ株式会社および国内関係会社の実績ならびに取組みをもとに編集しております。

2010年11月で当社は創業50周年を迎えます。これはひとえにお客様、お取引先様、地域社会、従業員などのさまざまなステークホルダーの皆様方のご支援ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。創業50周年を一つの節目と捉え、フジッコの半世紀の歴史を完成させて新路線を軌道に乗せるために、フジッコグループは2008年4月より経営基本原理「フジッコの心」を新たに制定し、“すこやか フジッコ”を合言葉に、法とルールを守り、力強く革新と成長の道を歩むことを宣言いたしました。この「フジッコの心」には、自社の成長のみならず、世界の環境と資源の問題に注目し、積極的に行動することを明記しており、今後、ますますクローズアップされる「企業の社会的責任」に対する責務を果たすことをお約束しております。

当グループは従来、環境的側面のみの報告をまとめた「環境報告書」を発行しておりましたが、昨年より、環境的側面と社会貢献面の活動をまとめた「社会・環境報告書」を発行しており、今回は2007年度の活動をまとめた「社会・環境報告書2008」を発行いたします。本報告書は、当グループのCSR活動への取り組みの進捗状況を報告するツールとして、また、皆様との重要な対話の場として活用したいと考えております。どうぞ皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただき、今後の活動の糧とさせていただければ幸いに存じます。

フジッコの心

－共生と感謝の歓びを込めて－

社は

創造－路

Always Be Creative

私たちの合言葉「すこやかフジッコ」

私たちは、食品企業の従業者として、温故知新の精神と医食同源の原点を見つめ、次の通り宣言します。

【三つの約束】（一を「ひとつ」と読みます）

- 一、私たちは、安心の品質と価値を誠実に提供します。
- 一、私たちは、自然の恵みの尊さを誠実に演出します。
- 一、私たちは、本当のおいしい味を誠実に追求します。

【三つのアタック】

- 一、技術向上、基礎力の習得に努めます。
- 一、挑戦意欲、高いレベルを目指します。
- 一、迅速正確、進んで物事にあたります。

【七つの実行】

- 一、全社目標と部門目標の一致を常に心がけます。
- 一、部門目標と個人目標の一致を常に心がけます。
- 一、報告・連絡・相談を徹底します。
- 一、相互の協力と連携を徹底します。
- 一、正確な処理と確認を徹底します。
- 一、社内・社外の情報を正確に把握し、積極的に行動します。
- 一、世界の環境と資源の問題に注目し、積極的に行動します。

私たちは、この「すこやかフジッコ」を心の支えとして、法とルールを守り、力強く革新と成長の道を歩んでまいります。



2008年10月

フジッコ株式会社

代表取締役社長

福井 正一

コーポレートガバナンスの確立

業務執行・経営の監視

取締役会は、取締役13名で構成されており、毎月1回の定期開催と必要があるときは随時開催しており、経営上の重要事項の承認とともに、業績の推移について議論し対策等を検討しております。

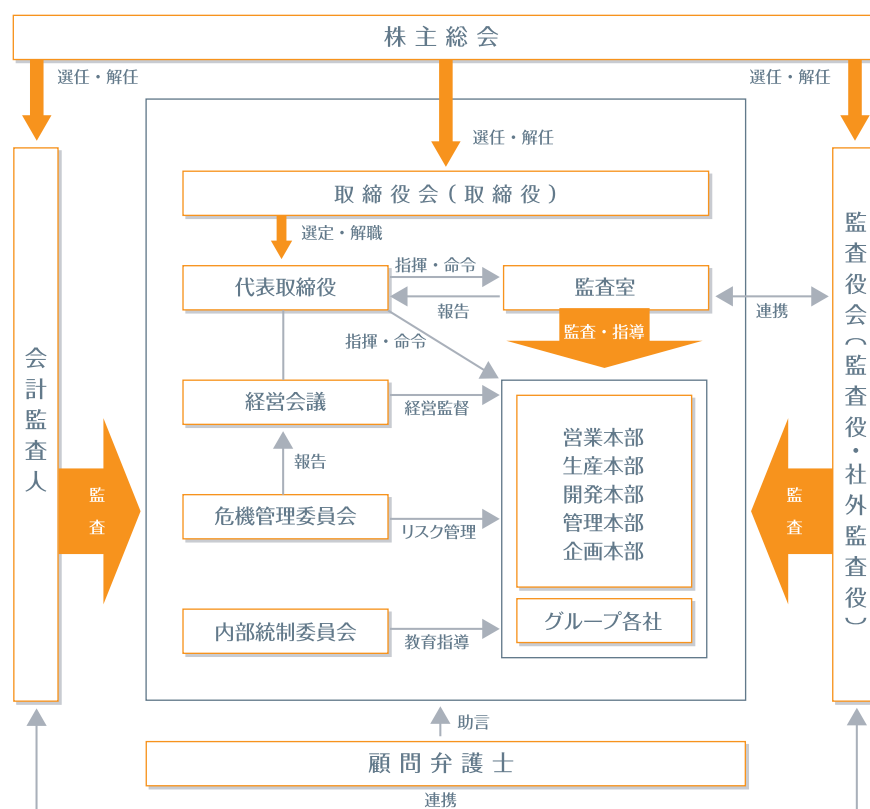
また、経営会議を取締役及び各部門長で構成し、毎週月曜日に開催して、経営上の重要事項について適時、適切な対応策を審議しております。

当社は、監査役制度を採用しており、3名の監査役のうち社外監査役は2名（非常勤）であります。常勤監査役は全ての取締役会、経営会議に出席し、必要な意見を述べ、取締役の職務執行の状況を十分監視できる体制になっております。

内部監査は、社長直属の監査室を設置し、3名の専従者により関係会社も含めて定期的に内部監査を実施しております。

内部統制システムの整備状況

企業内部を適正に管理し、企業価値向上を目指すとともに、会社法・金融商品取引法に対応する体制を構築するため平成18年5月開催の取締役会において、「内部統制システム構築の基本方針」を決定するとともに、適切な運営に努めております。この方針による取組み事項として、当グループの企業理念を見直し、新たに経営基本原理として再構築し、「すこやかフジッコ」を合言葉とする「フジッコの心」を平成20年4月に制定しました。同時に、「フジッコグループ倫理行動基準」を見直し、「フジッコグループの倫理基準」として一部改定しました。金融商品取引法に係る内部統制の構築では、内部統制委員会を設置し、「財務報告に係る内部統制の基本方針と基本計画」を策定し、社内規程の改定、内部統制の整備・運用状況のテスト評価を実施いたしました。



コンプライアンスの徹底

フジッコグループの倫理基準

フジッコグループは、お客様の信頼にお応えしていくため、コンプライアンスを重要な経営課題と捉えています。コンプライアンスへの対応をより明確にするため、「倫理基準」を定めました。グループの役員および職員は、本基準を誠実に遵守し、社会的責任を果たすことに努めてまいります。

倫理基準

【①法令の遵守】

- 国内外の法令および規則、社内規則を遵守し、公序・良俗を大切にして、高い倫理観のもとで行動します。

【②人権の尊重】

- 人権を尊重し、人種、信条、宗教、国籍、年齢、性別、門地、心身などに基づく差別をしません。
- 性的嫌がらせおよび嫌がらせと誤解される発言、行動を認めません。
- 権力、地位を不当に利用した嫌がらせを認めません。

【③安全、安心な製品への取り組み】

- 食品製造業に携わる者として、常に安全で安心な製品づくりに取り組みます。

【④顧客取引先との関係】

- 信義、誠実、公正、透明な対応を心がけ良好な関係の構築に努めます。
- 公正かつ自由な競争を維持、促進することに努めます。
- 取引先等の役職員に対し贈賄行為、不正な利益の供与を行いません。また、受けることはありません。

【⑤職場環境の確保】

- 労働関係法令を遵守し、安全・衛生で健康に十分配慮した、働きやすい職場環境の確保に取り組みます。

【⑥守秘義務、知的財産権の尊重】

- 会社の機密情報を許可なく第三者に漏洩したり、不正に使用しません。
- 顧客、取引先など第三者の機密情報も会社の機密情報と同様に扱います。
- ソフトの不正コピーなど第三者の知的財産権を侵害しません。

【⑦公私の厳密な区別】

- 会社の利益に反する行為は行いません。
- 会社の資産や経費を会社の利益に反して使用することはありません。

【⑧反社会的勢力への姿勢】

- 反社会的勢力および団体に対しては、毅然とした態度で臨み、反社会的行為には一切加担しません。

【⑨地球環境保全への配慮】

- 地球環境の保全に役立つことを考え、有害な行動をとりません。

【⑩社会的責任の遂行】

- 良き企業市民として、よりよい社会の実現にむけ積極的に社会貢献に努めます。
- 様々な関係者の理解および支持を得られるよう積極的に企業情報を開示し、透明性の高い経営を行います。

社会性報告

Social Report

Contents

- 「ふじっ子だから安心」と言われ続けるために・・・
[04]
- 社会貢献活動
[06]
 - ・食育活動
 - ・昆布ミネラル国際支援
 - ・献血運動への協力
 - ・ベルマーク運動への参加
- ステークホルダーとのコミュニケーション
[09]
 - ・お客様とのコミュニケーション
 - ・株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

「ふじっ子だから安心」と言われ続けるために…

作り方の努力だけではカバーしきれないものだけに、原材料の安全性確認は厳密に行います。フジッコ（株）の本社内に専門部署「食品安全検査室」を設置、国内産・海外産を問わず、残留農薬検査をはじめ様々な安全検査を実施しています。

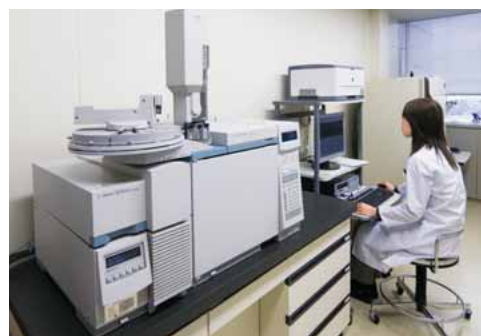


ふじっ子あんしんシステム

【1.残留農薬検査】

フジッコが使う原材料農産物は、国内産・海外産を問わず、すべて「残留農薬検査」を実施しています。現在の対象は豆をはじめ野菜などの主要原材料164種。有機リン系などの危険度の高いものから一般薬まで300種類の農薬をカバー。残留の有無とその量を検出する最新鋭のGC/MSシステムを用いて測定し、1検体延べ3日間の検査を重ね、合否判定ののち安全性が確認できたものだけを使用します。

(検査対象:全ての農作物:豆類・根菜・野菜等×国内産+海外産のすべて×検査農薬300種類)



【2.動物用医薬品検査】

フジッコ製品で使用している魚介類・畜産物などの動物性食材は約30種類。国内産・海外産を問わず、私たちはこれらの動物性食材に対して、抗生物質や抗菌性物質の残留がないかを、同一サンプルを取り寄せ「動物用薬品検査」を実施して安全性を確認しています。

【3.遺伝子組換え検査】

フジッコがお届けしている製品の原料には「遺伝子組換え作物」は一切使用していません。国内産大豆を中心に、栽培方法を確認できる原産地のものを厳選し、検査機関の証明に加えて社内でもロットごとの遺伝子組換え検査を行い、完全を期しています。



【4.アレルギー物質検査】

生産ラインではいろいろな食品を製造します。そこで、もし万が一、表示をしていない製品にアレルギー物質が混入することがないように、工場では「5大アレルギー」を含む食材の使用後は、その生産ラインの拭き取り検査を行い、アレルギーが残留していないかを調べた上で、さらに、できあがった製品にもち込まれていないかを「食品安全検査室」で再検査し、安全を確認しています。

【5.フジッコトレースシステム】

製品のひとつひとつの詳細な履歴を掌握・管理するトレースシステムを採用。残留農薬・遺伝子組換え検査などの結果に加え、材料情報・工程情報を把握し、その製品の生産履歴が直ちに分かる仕組みになっています。その一部の情報はお客様が自由に調べることができるように公開しています。

(現在、おかず畑、つけもの百選、簡単クッキング水煮、ソフトデリの各シリーズ商品について実施)



フジッコトレースシステムの概念図

社会貢献活動

食育活動

【フォーラムの開催】

カスピ海ヨーグルトの素晴らしさを世間一般に広く知っていただくために「カスピ海ヨーグルトフォーラム」を東京・大阪で開催しました。また、当社がカスピ海ヨーグルトの種菌の頒布活動で100万人に到達した日であることと、コーカサス地方の長寿者のように「いい一杯(1・1・1・8)」のヨーグルトを毎日飲んで「いきいきいっぱい(1・1・1・8)」の元気あふれる暮らしを願うという語呂から11月18日は“カスピ海ヨーグルトの日”と制定されております。



【料理教室、食育授業の開催】

東京FFセンターや本社のパーティキッチンにて、小学生を対象に“おまめさん丹波黒黒豆”を使った「スイーツ料理教室」や“ふじっ子煮”を使った簡単でヘルシーなメニューを作る「父(団塊世代)と娘の料理教室」等の料理教室を開催しました。また、料理教室だけでなく、東京都東久留米市立第九小学校1年生を対象に、「おまめとお箸の食育授業」を行いました。



【「まめっ子くん」無償頒布】

お箸の使い方を練習するために各地で行われていた“豆つかみゲーム”は、単にお皿からお皿へ豆を移すだけのゲームでしたが、それに「お箸を使ってお皿のものをお椀に正確にのせる」という和食作法やお行儀の要素を取り入れ、より食事動作に近い形で練習できるように製作されたのが「まめっ子くん」であります。「まめっ子くん」で遊んでいる最中は前頭葉機能が活性化しているというデータもあり、「子供のお箸の使い方を練習する」という目的を超えて、大人の脳活性にも役立つゲームとしての期待も寄せられております。

この「まめっ子くん」を全国の教育機関・福祉施設(200団体)に無償頒布いたしました。



【啓蒙出版】

弊社はこれまで、日本の伝統食材として古くから親しまれてきた昆布や豆といった食材を中心に、食育活動を行ってききましたが、昆布に関する書籍が豆に比べて少ないことから、昆布の歴史や食べ方、栄養について楽しく学べる漫画「フジッコ食育まんが劇場 こんぶロードの旅」(発行元:エンタイトル出版)を、(社)日本昆布協会が定めた昆布の日である11月15日に出版いたしました。



昆布ミネラル国際支援

ネパールで国家的健康問題となっている「ヨード欠乏症」の根絶に努力する熱田先生を“昆布ミネラルカプセル”の無償提供で応援しています。



あつた ちかよし
熱田 親憲 先生

三洋電機退社後、関西国際大学教授を経て現在、関西学院大学非常勤講師。講演・執筆・マーケティングコンサルタントなど多方面で活躍中。長女がネパール人男性と結婚したことでネパールが抱える社会問題を知り、支援ボランティア活動へ精力的に参画する。また、画家としての一面も持ち、情感あふれる水彩画を次々と発表。作品はインターネットでも購入でき、売上はネパール支援活動資金にあてられている。

詳しくは<http://www.atsuta-garo.com/>まで。

ヨード欠乏症って？なぜ「昆布ミネラル」？

【「ヨード欠乏症」とは】

慢性的なヨード摂取不足により甲状腺が機能不全を起こす病気です。のどのあたりにこぶのような腫れ物ができる「甲状腺腫」と、甲状腺ホルモンの分泌不全で心身の障害をきたす「クレチン症」の2種類の症状が主に見られ、これらを総称してヨード欠乏症といいます。

ヨードは海藻類に多く含まれます。海藻を日常的に食する日本ではこの病気はほとんど見られませんが、内陸地帯や山岳地帯では、ユニセフがその対策に乗り出すほど重大な健康問題となっています。自給自足の農村地帯が多く、険しい山々に囲まれた集落の多いネパールでは、特に重症患者が多いことで知られています。

【なぜ「昆布ミネラル」？】

ネパールでは、国が主導してヨードを添加した塩の摂取を勧めていますが、輸送手段の乏しさ・保管状態の悪さ・現地の嗜好に合わない味・病気への認知不足などが要因となって、あまり成果が見られていないとのこと。そこで熱田先生が目をつけたのが、ヨードが豊富で成分が劣化しにくい日本の「昆布」でした。しかし、もともと海藻になじみの薄いネパールの人々には、その食感と風味はなかなか親しんでもらえません。さて、どうやって食べてもらおうか・・・熱田先生からの相談を受けたフジッコは、独自技術で昆布エキスを抽出し粉末にした業務用製品「昆布ミネラル」をおすすめしました。これをカプセルに詰め、お薬のように飲んでもらえばどうか、と提案したのです。ヨードの薬というのは以前から存在しましたが、ヨードチンキのような化学的なものがほとんどで、効きすぎや副作用が懸念されていました。しかし、「昆布ミネラル」は天然成分そのものなので、体にやさしく自然に吸収されやすいのです。

献血運動への協力

日本赤十字社より、永年にわたる献血運動への協力に対し、銀色有功章をいただきました。また、厚生労働省が掲げる献血構造改革の中で、企業・団体に対する献血の推進対策として、献血に積極的に協力する企業・団体が行う献血活動を広く一般社会に認知していただくよう、社会貢献活動の象徴として、ロゴマークを発行することが決定され、「献血サポーター」と名づけられました。この「献血サポーター」活動に参加登録し、社会貢献活動である献血活動を一般の方々にわかりやすくPRする「献血サポーターマーク」の使用許可をいただきました。



私たちは
献血推進キャンペーンを
応援しています。

ベルマーク運動への参加

フジッコ(株)は、1974年4月よりベルマーク運動に参加しており、証票点数も累計で3億点を突破しております。

【ベルマーク運動とは?】

ベルマーク運動は、PTA、企業、ベルマーク財団の三つの組織がスクラムを組んで進めているボランティア活動です。この活動によって、PTAは自分の学校の設備を整えると同時に、へき地にある学校や特別支援学校(特殊教育諸学校)、災害被災校、さらには発展途上国の子供たちへの援助も行えます。

ステークホルダーとのコミュニケーション

お客様とのコミュニケーション

【お客様相談室】

お客様の声こそがフジッコグループの明日への指針と考え、どんな小さな苦情やご意見もナマの声で伺うのは、創業以来の習わしであります。取扱う製品の数も多くなり、大規模な調査をしても、お客様のお宅を訪ねても、まだまだ伺いきれないご意見や製品・製法についての質問を受けることができるように「お客様相談室」として専用ダイヤルを1993年から設けています。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

【株主総会および株主懇親会の開催】

フジッコ（株）の2007年度の株主総会は2007年6月28日に開催し、143名の株主様にご出席いただきました。また、株主総会終了後には、株主の皆様と当社役員のコミュニケーションを深める機会として、2000年度より「株主懇親会」を開催し、フジッコ製品の紹介やフジッコ製品を使った料理を試食していただきながら、経営に関するご質問、製品や事業運営についての貴重なご意見をお聞きしています。



【株主優待制度】

フジッコ（株）は、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、フジッコ製品をより身近に感じていただくために、1991年度より1,000株以上株式を保有する株主様に対してフジッコ製品の詰め合わせセットを毎年6月にお届けしております。



2007年度送付の当社製品 ▶

【決算説明会の開催】

本決算および中間決算発表後にアナリスト・機関投資家の皆様とのコミュニケーションを深めるため、経営トップ自身が経営戦略やその進捗状況等を説明し、質問に答える機会を設けるため、決算説明会を定期的に開催しております。

【ホームページによる情報開示】

フジッコ（株）はさまざまなステークホルダーの皆様に適時・適切な情報を開示するため、ホームページにおいて情報開示を行っております。

※「フジッコ」ホームページ

URL <http://www.fujicco.co.jp>



環境報告

環境報告

■環境基本方針

- ・環境基本理念

[12]

■2007年度の環境管理活動の状況

- ・環境マネジメント組織
- ・環境目的・目標
- ・環境目標の達成状況
- ・新しい環境目標
- ・環境への負荷
- ・環境に関するご指摘

[13]

環境基本方針

環境基本理念

フジッコグループは、「すこやかフジッコ」を合言葉に日本の伝統食・伝統食材に基づいた、健康という付加価値を持った商品をつくり出しております。

健康という付加価値をもつには、まず、素材と従業者が健康でなくてはなりません。そのためには、地球環境が健康であることが必要不可欠であります。近年、私たちの住む地球は、科学技術の発達と生活環境の変化によって汚染が進み、食品の安全性を含め生活環境の破滅を招く事態となっております。

ここに、食を通じて社会に役立ちたいと願うフジッコは各工場において環境に配慮した生産活動を行い、地球環境の改善ならびに地球環境への負荷軽減に資するよう、たえず努力することを誓います。

環境行動指針

【1】

事業活動にかかわる環境側面を常に配慮し、環境マネジメントシステムを構築することにより環境保全活動の継続的な向上を図ります。

【2】

食品工場の宿命として水の使用量が多いこともあり、水質汚濁防止のため工場排水を重点的に管理し、地域社会との共生を図ります。

【3】

主な消費エネルギーである電力や重油の節減に取り組むとともに、廃棄物の低減化、リサイクル、リユースにも努力します。

【4】

環境基本法を中心とした環境関連の法律・規制・協定を遵守するとともに国際環境規格を守ります。

【5】

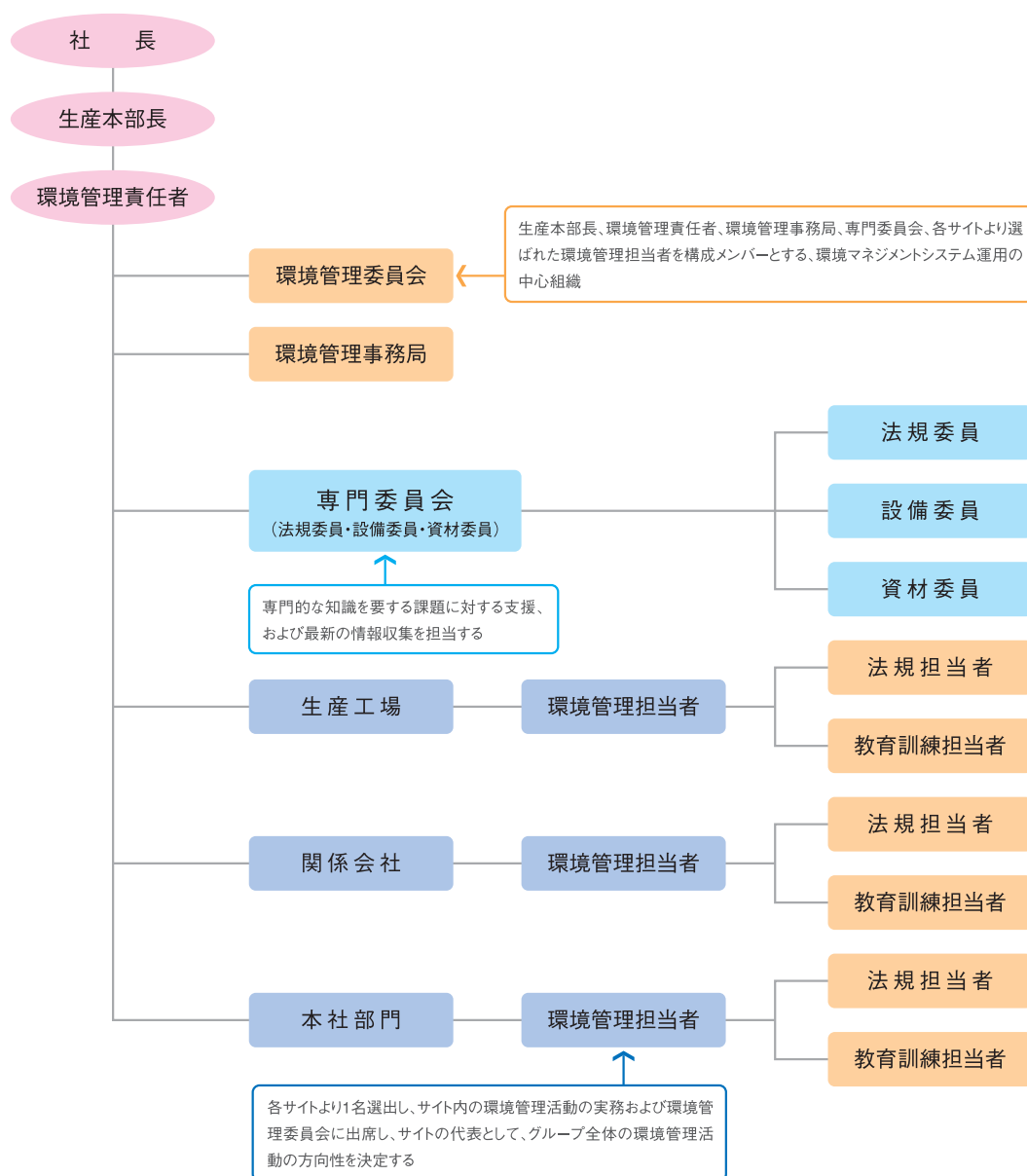
環境目的、環境目標を設定し、毎年見直しを行って改善に努めます。

2007年度の環境管理活動の状況

環境マネジメント組織

環境に与える影響が最も大きい生産部門を中心とする環境マネジメント組織で環境負荷低減のための活動を行いました。

■フジッコグループ 環境マネジメント組織



環境目的・目標

生産部門における環境側面の調査結果より、フジッコグループ全体で取り組むべき環境管理活動を環境目的および環境目標として定めました。

取り組み項目

【環境目的】

5ヵ年の中期目標を環境目的として定め、数値目標達成に向けグループ全体で取り組んでおります。

☐ 取り組み ☒ 目標

1	水の使用量を削減する。 → 2006年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で3%削減する。
2	食品廃棄物の再生利用等を促進する。 → 2011年度までに、食品廃棄物の再生利用等の実施率を95%にする。
3	電力消費量を増加させない。 → 2006年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で100%を超えないようにする。
4	石油系燃料（灯油・重油）の使用量を削減する。 → 2006年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で3%削減する。
5	CO ₂ 排出量を削減する。 → 2007年度を基準として、2011年度までに出荷重量対比で2%削減する。

【環境目標】

2007年度の数値目標を環境目標として定め、その達成に向けグループ全体で取り組みました。

1	水の使用量を2006年度より、出荷重量対比で0.5%削減する。
2	食品廃棄物の再生利用等の実施率を93%にする。
3	電力消費量を2006年度の出荷重量対比で100%を超えないようにする。
4	石油系燃料（灯油・重油）の使用量を2006年度より、出荷重量対比で0.5%削減する。
5	2007年度のCO ₂ 排出量を把握する。

環境目標の達成状況

2007年度の数値目標である環境目標の達成に向けグループ全体で環境負荷の低減に取り組んだ結果、水の使用量と電力消費量の削減は未達成でしたが、食品廃棄物の再生利用等の実施率、石油系燃料の使用量の削減およびCO₂排出量を把握することについては目標を達成することができました。

環境目標		実績
水の使用量を2006年度より、出荷重量対比で0.5%削減する。	➡	前年対比 7.7%増加 ×
食品廃棄物の再生利用等の実施率を93%にする。	➡	実施率 96.4% ○
電力消費量を2006年度より、出荷重量対比で100%を超えないようにする。	➡	前年対比 100.1% ×
石油系燃料（灯油・重油）の使用量を2006年度より、出荷重量対比で0.5%削減する。	➡	前年対比 13.8%削減 ○
2007年度のCO ₂ 排出量を把握する。	➡	調査を行った。 ○

新しい環境目標

【2008年度の環境目標】

2008年度の環境目標は以下の通りであります。

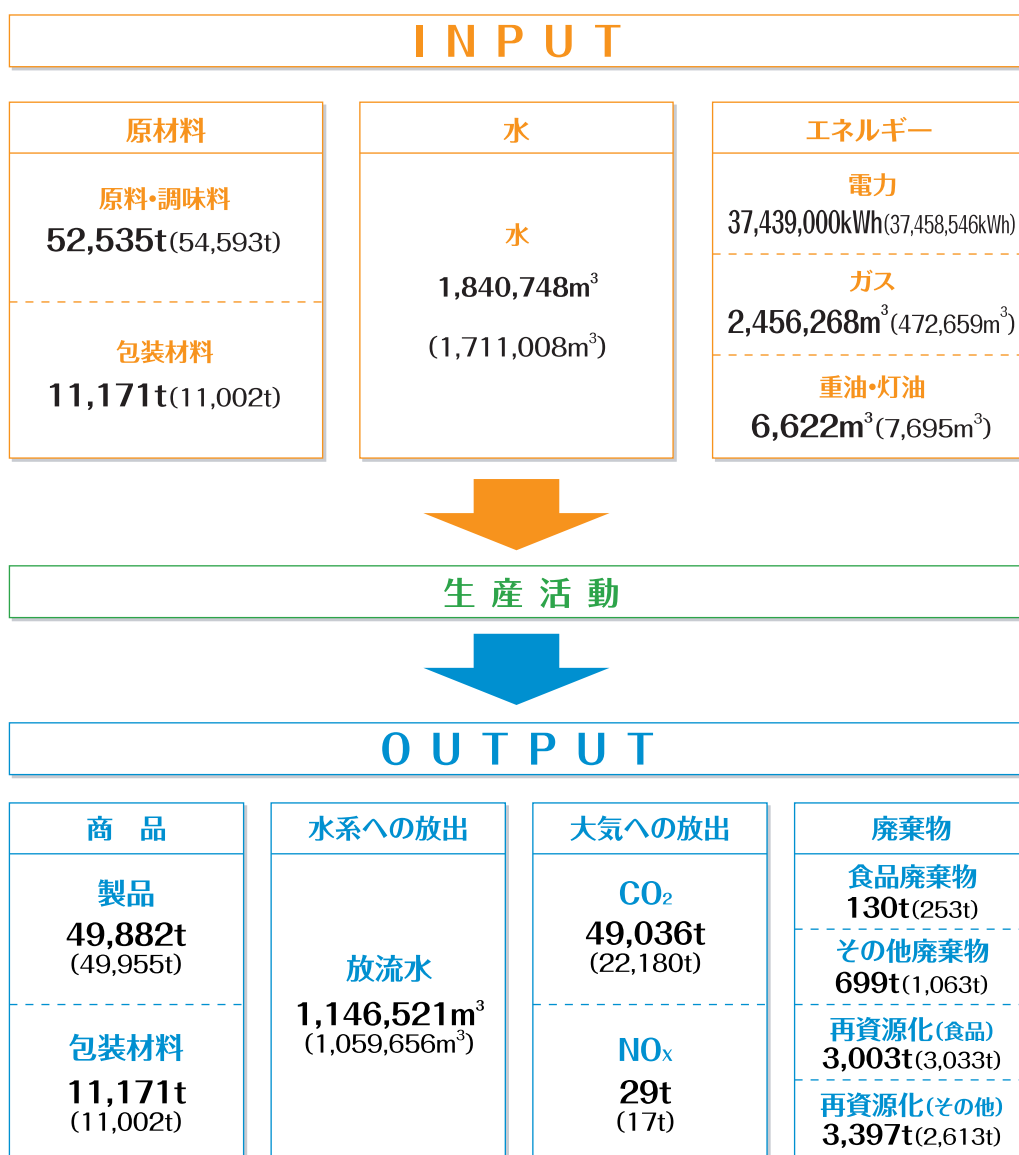
1	水の使用量を2006年度より、出荷重量対比で1.2%削減する。
2	食品廃棄物の再生利用等の実施率を93.5%にする。
3	電力消費量を2006年度の出荷重量対比で100%を超えないようにする。
4	石油系燃料（灯油・重油）の使用量を2006年度より、出荷重量対比で1.2%削減する。
5	CO ₂ 排出量を2007年度の出荷重量対比で0.5%削減する。

環境への負荷

下図は、2007年度のフジコグループの生産工場における、環境への負荷をフローの形で表したものです。なお、()内は、2006年度の数値を示しています。

原材料と水、エネルギーがインプットされ、佃煮・煮豆等の製品が生産され、生産活動の結果、アウトプットとして、水系に排水が、大気系にCO₂、NO_xが放出され、また廃棄物が排出されます。

このような生産活動による環境負荷のうち、「水の使用」「電力の消費」「重油・灯油の使用」「食品廃棄物の排出」「CO₂の放出」を著しい環境側面と特定し、これらの環境負荷低減のための活動を行いました。

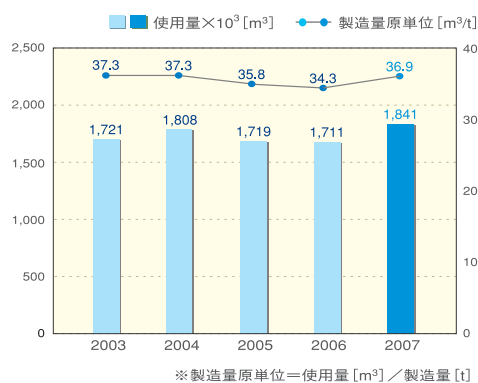


※今期よりCO₂、NO_x排出量に電力購入蒸気由来の発生量も含めました。

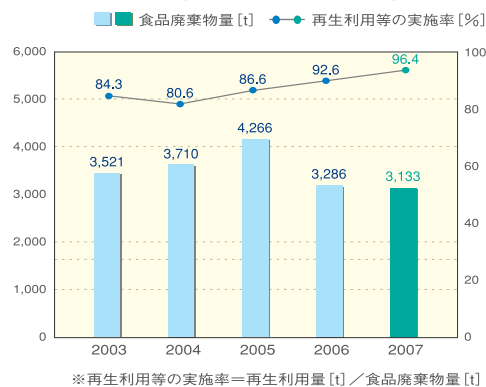
【過去5年間（2003年度～2007年度）の実績について】

過去5年間の水の使用量、食品廃棄物の再生利用等の実施率、電力消費量、石油系燃料（重油・灯油）の消費量および2007年度のCO₂排出量は下記のとおりです。

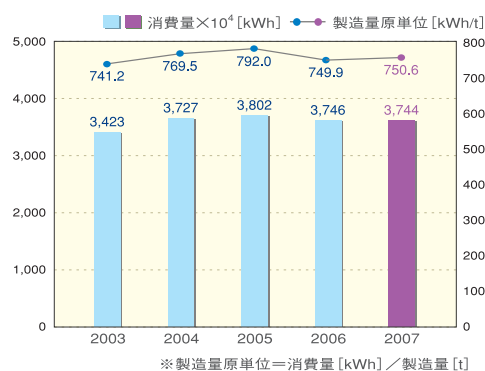
水の使用量の推移



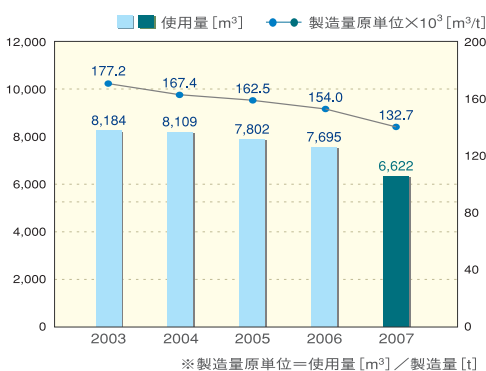
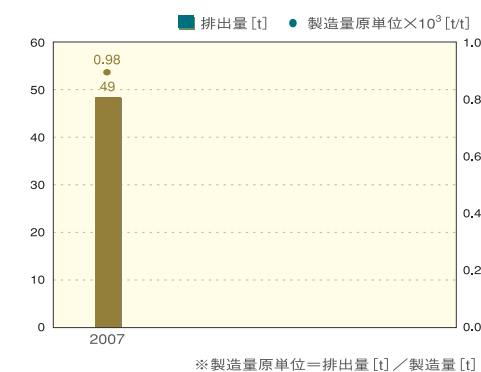
食品廃棄物の再生利用等の実施率の推移



電力消費量の推移



石油系燃料の使用量の推移

CO₂排出量の推移（2007年度より）

環境に関するご指摘

各事業所では、環境に配慮した生産を行うように努めておりますが、事業所近隣の方より、事業所内で気がつかないような環境影響について、ご指摘を受けることがございます。

このような近隣の方からのご指摘について、ひとつひとつ改善していくことで、より精度の高い環境管理を行っていきたいと考えております。

過去3年間（2005～2007年度）の、近隣の方からの環境に関するご指摘は、以下の通りです。

ご指摘内容	年度	事業所	対 策
トラックのアイドリングの音	2005	西宮工場	アイドリングストップ看板を増設し、関連運送会社にも通達を出しました。
時間外のダンボール回収作業による騒音	2005	西宮工場	回収業者に対して、回収作業時間の厳守を要請しました。
ボイラーの不完全燃焼による異臭	2005	西宮工場	ボイラーの使用を直ぐ中止し、修理を行いました。
ボイラー故障による黒煙発生	2005	和田山工場	ボイラーの使用を直ぐ中止し、修理を行いました。
汚泥乾燥時の水蒸気の臭気	2005	和田山工場	新入社員への教育不足により、汚泥乾燥機の運転手順が正しく運用されていなかったため、OJT教育を行い正しい運転手順を指導しました。
ヨーグルトの排水処理場の臭気	2006	西宮工場	一日の排水がその日のうちに放流されるように再調整し、薬品での消臭を行うように改善しました。
トラックのアイドリングの音	2006	西宮工場	アイドリングストップ看板を増設し、関連運送会社に要請及び指導を行いました。
詰め替えおせち用保冷車（冷凍機）の音	2006	和田山工場	保冷車の設置場所について、近隣の家屋の近くに止めないよう設置しました。
排出水の水質改善（行政よりの指示）	2006	フジコン食品	原水フィードポンプの過少流量に対するの発報が行えるように改造を行いました。また、原水フィードポンプの自動切換えによる自動運転が行えるようにシステムの改良を行いました。
排水処理場の臭気	2007	和田山工場	排水処理場の能力が低下した為、生産数量の調整・濃厚廃液・汚泥の産廃処理を行いました。
ヨーグルト排水処理場の臭気	2007	西宮工場	調整槽のブローア時間の調整と排出量の調整を行いました。

事業所による環境 管理活動レポート

Contents

事業所による環境管理活動について	[20]
環境保全に対する取り組みの歴史	[31]

西宮工場（生産品目：納豆、佃煮、ヨーグルトなど）

【環境目標の達成状況】

目標		実績
水の使用量を前年より出荷量対比で3%削減する	➡	前年対比 5.6%削減 ○
食品廃棄物の再生利用率等の実施率を20%以上にする	➡	実施率 86.3% ○
電力消費量を増加させない	➡	前年対比 5.5%削減 ○
灯油使用量を前年より出荷重量対比で3%削減する	➡	前年対比 6.7%増加 ✕
工場周辺の清掃活動と周辺美化実施	➡	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量削減のために、節水バルブを工場内で2箇所設置しました。
- 食品廃棄物の再利用を進める為に、2007年6月より、動植物性残渣の完全リサイクル処理を実施しました。
- 電力消費量を削減するために、排水処理用ブロアーのインバーター制御調整、冷蔵庫の統合と設定温度の変更を行いました。
- 灯油の使用量を削減するために、排水処理場の処理温度を前年より -2°C にしました。
- 蒸気漏れの箇所の修理を行いました。
- エマルジョン燃料のテストを実施しました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 環境負荷低減のために、水の使用量、電力の消費量、灯油使用量について、毎月集計し広報を行いました。

【地域環境への貢献活動】

- 地域環境の向上のため、工場周辺の清掃を毎日実施し、近隣住宅付近と工場敷地境界の植木の剪定を行いました。
- タバコポイ捨て注意看板、アイドリング防止の看板を更新しました。

【過去5年間（2003～2007年度）の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	17,592	25,838	20,017	21,070	19,659
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	0.00	38.44	28.84	19.70	86.33
電力の消費量	kwh	1,023,093	1,266,470	1,123,523	1,103,816	1,031,100
石油系燃料（重油・灯油）の使用量	m ³	122	167	135	127	133
CO ₂ 排出量	t					907
出荷重量※	t	1,955	2,516	2,446	1,685	1,666

※2005年度までは、西宮工場外で生産している製品も出荷重量に含めていましたが、2006年度からは、工場内で生産している製品のみを出荷重量として計算しています。

和田山工場(生産品目:煮豆・塩吹昆布など)

【環境目標の達成状況】

目標		実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 1.8%増加 ×
産業廃棄物の排出量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 42.6%増加 ×
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 3.1%削減 ○
石油系燃料(重油)の使用量を前年より出荷重量対比で増加させない	➡	前年対比 4.6%増加 ×
諸資材の省資源化とグリーン購入の比率を45%にする	➡	購入比率 44% ×
温室効果ガスの排出量を前年より出荷重量対比で増加させない	➡	前年対比 5.2%増加 ×

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するために排水処理場用水およびボイラー用水の利用率をアップさせました。
- レトルト水の温度を下げRES真空制御用水として使用し、利用率のアップを行いました。
- 煮豆レトルト殺菌機空運転時のDチェックの実施と、温水槽水交換回数の減少による用水の削減を行いました。
- 廃棄物削減のために濾過工程の活性炭を脱水しました。また、煮豆供給コンベアにカバー等を取り付けることで、こぼれを防止しました。
- 電力消費量を削減するため、受電室のトランスを高効率のものに入れ替えました。また、各天井・壁のファンをインバーター化し、夜間・冬期などは低速運転にしました。
- 電力消費量を削減するため、エレベータ前室の蛍光灯を感知式ライトに変更しました。
- 重油の使用量を削減するため、ドレン回収装置を見直し、エネルギーロスを低減しました。また、各スチームトラップのチェックを行い、小まめに修理するとともに、消化ガスボイラーの見直しを行い、放出ガスのエネルギー化を行いました。
- グリーン購入比率を推進した結果、グリーン購入の比率が44.1%となりました。
- CO₂削減のため、電力、重油、ガスの使用量低減活動を行いました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 従業員向けに、家庭でできる省エネの資料を掲示し意識の高揚を進めました。
- 環境目的・環境目標および毎月の環境実績のグラフを掲示するとともに広報を行い、環境負荷低減活動を啓蒙しました。



【地域環境への貢献活動】

- 環境パトロールでは、月1回、工場内部と工場周辺を巡回し点検を実施しています。
- クリーン作戦として、工場周辺右岸道路、円山川河川敷の清掃活動を行っています。

和田山工場(生產品目:煮豆・塩吹昆布など)

【過去5年間(2003～2007年度)の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	348,677	318,763	293,034	330,291	355,012
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	59.88	100.00	100.00	100.00	100.00
電力の消費量	kwh	6,110,740	6,098,730	5,760,670	5,873,251	6,010,712
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	2,204	2,186	2,097	2,032	2,247
CO ₂ 排出量	t					10,406
出荷重量	t	8,696	8,515	7,941	8,356	8,821

加古川分工場(生產品目:煎り豆)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
電力消費量を前年より出荷重量対比で0.5%削減する	前年対比 13.9%削減 ○
工場周辺の清掃を定期的に行う	2回実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 電力消費量の削減の目的で、蛍光灯の点灯本数削減、点灯時間の短縮を行い、使用時に小まめに消すようにしました。

【地域環境への貢献活動】

- 美化運動として、工場周辺道路、加古川沿いの清掃を行いました。

【過去3年間(2005～2007年度)の環境負荷データ(加古川分工場については、2005年度からの実績となります)】

	単位	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	826	814	643
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	0.00	0.00	0.00
電力の消費量	kwh	169,004	165,180	14,216
CO ₂ 排出量	t			19
出荷重量	t	101.1	84.3	66.2

※加古川分工場では、石油系燃料を購入していません。

関東工場(生產品目:佃煮、煮豆、デザートなど)

【環境目標の達成状況】

目標		実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 13.4%増加 ×
食品廃棄物の再生利用等の実施率を100%にする	➡	実施率98.7% ×
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 5.9%増加 ×
ボイラーで使用する重油の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 12.5%増加 ×
地域の環境保全活動に参加する	➡	実施 ○
工場周辺を定期的に清掃する	➡	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減する為、節水バルブを取り付けました。
- エアコンをインバータータイプに更新しました。
- レトルト殺菌装置の温水槽へ保温カバーを取り付けて放熱によるエネルギーのロスを減少させました。



【地域環境への貢献活動】

- 渡良瀬遊水地クリーン作戦へ参加しました。
- 工場外周の側溝清掃と除草を定期的の実施しました。

【過去5年間(2003～2007年度)の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	348,715	401,352	389,610	372,158	392,808
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	98.70
電力の消費量	kwh	6,211,584	7,572,755	7,991,868	7,731,660	7,620,140
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	1,914	1,884	1,863	1,947	2,040
CO ₂ 排出量	t					9,780
出荷重量	t	7,426	8,674	8,541	8,985	8,376

横浜工場(生産品目:日配惣菜)

【環境目標の達成状況】

目標		実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で10%以上削減する	➡	前年対比 18.2%削減 ○
電力消費量を前年より出荷重量対比で5%以上削減する	➡	前年対比 9.7%削減 ○
ガスの使用量(カロリー換算)を前年より出荷重量対比で3%以上削減する※	➡	前年対比 18.9%削減 ○
廃棄物の再利用率を出荷重量対比で3%向上させる	➡	再利用率 3.8%増加 ○

※ガスについては、LPGから天然ガスへの転換を行いましたので、発生カロリー量で換算しました。

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するため、ボイル方法を見直し、また、流水処理の時間設定を行ったことで、ボイル水および冷却水の排水量を削減しました。
- 電力消費量を削減するため、真空冷却期のクーリングタワーの運転を温度制御にしました。また、空調室外機にエネチカットを取り付けました。
- 冷蔵庫の室内機を洗浄しました。また、電磁フライヤーの余熱運転のルールを見直しました。
- 真空冷却機の循環ポンプのインバーター化を行い、流量の調整を行いました。
- コンプレッサーの設定圧力を調整しました。
- ガスの使用量を削減するため、ボイラーの吐出バルブに保温材を取り付けました。また、炒め機の薬剤洗浄の方法を見直し、余熱で洗浄することになりました。
- ガスを使用する機器の予熱運転を短縮しました。
- ガスを従来のLPGから、カロリー当りのCO₂発生量の少ない都市ガスに転換しました。その結果、使用量(カロリー換算)では、18.9%の削減でしたが、ガス由来のCO₂発生量では、28.7%削減出来ました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 毎月のエネルギーおよび水の使用状況をグラフにて掲示すると共に、エネルギー使用量を朝礼で広報しました。
- 隔月に節水委員会を開催しました。

【地域環境への貢献活動】

- 横浜市資源循環局が行う廃油の有効利用実験に協力しました。
- ガス燃料をLPガスから都市ガスへ転換することにより、ボンベ配送車から排出されるCO₂を削減しました。

【過去4年間(2004~2007年度)の環境負荷データ(横浜工場については、2004年からの実績となります)】

	単位	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	46,074	46,594	46,395	39,205
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	45.37	100.00	100.00	100.00
電力の消費量	kwh	1,321,661	1,523,100	1,514,400	1,412,580
CO ₂ 排出量	t				1,503
出荷重量	t	543	1,294	1,741	1,799

※横浜工場では、石油系燃料を購入していません。

東京工場(生産品目:佃煮・調味食品・包装惣菜・日配惣菜など)

【環境目標の達成状況】

目標		実績
排水処理水のBOD.値を1,898ppm以内に収束させる	➡	BOD.値1,177ppm ○
廃棄物のリサイクル率74%を達成させる	➡	再利用率40.2% ×
廃棄物の排出量を出荷重量対比で前年より5%増加以内にする	➡	前年対比 23.7%増加 ×
電力の消費量を生産バック数対比で前年を維持する	➡	前年対比 0.7%削減 ○
蒸気消費量を生産バック数対比で前年を維持する	➡	前年対比 0.3%削減 ○
地域の環境保全活動への参加及び環境改善活動を実施する	➡	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 佃煮まぶしラインを連続添加混合設備から、バッチ添加混合設備に変更することにより、濃厚廃液および洗浄水の削減により、排水処理水のBOD低減、消費電力の削減ができました。
- 廃棄物のリサイクルの為、使用済み用紙などの紙を分別回収し、有価物として引き渡しを開始しました。
- 廃棄物の排出量を削減する為、煮熟工程、計量工程でのこぼれ防止のためのガイド等を作成しました。
- 日配惣菜のタイムテーブル管理により、生産性向上による、作業時間の短縮化が図られ、空調・照明設備による消費電力の削減ができました。



【従業員への教育と啓蒙】

- 環境に影響のある設備の操作担当者への教育を行いました。

【地域環境への貢献活動】

- 船橋市主催の清掃活動への参加、定期的な工場周辺の清掃活動を行いました。



【過去5年間(2003～2007年度)の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	235,426	242,430	247,656	267,935	321,595
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	88.45	90.11	91.67	89.55	88.00
電力の消費量	kwh	5,122,463	5,699,180	5,663,009	5,912,596	6,398,995
CO ₂ 排出量	t					9,100
出荷重量	t	7,844	8,480	9,158	9,615	10,480

※東京工場では、石油系燃料を購入していません。

鳴尾生産事業部(生産品目:佃煮・包装惣菜など)

【環境目標の達成状況】

目標		実績
水の使用量を出荷重量対比で前年維持する	➡	前年対比 16.1%増加 ×
食品廃棄物の再生利用等の実施率を20%にする	➡	実施率 100% ○
電力消費量を出荷重量対比で前年維持する	➡	前年対比 6.4%削減 ○
石油系燃料(灯油・重油・LPG)の使用量を出荷重量対比で前年維持する	➡	前年対比 99.3%削減 ○
地域保全活動を実施する	➡	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減する目的で、真空冷却機のクーリングタワーの運転制御を行いました。
- 食品廃棄物の排出量を抑制する目的で、生ゴミの脱水を行うとともに、佃煮製造ラインにこぼれ防止ガイドを設置し、排出量を約6.3t削減しました。
- 電力消費量を削減する目的で、コンプレッサーのインバーター化、吸排気・排水ブロアーに省エネベルトを使用しました。
- 石油系燃料を削減する目的で、炉筒ボイラーから貫流ボイラーに変更し、灯油から都市ガスに転換しました。この結果、石油系燃料の使用は殆どなくなりましたが、都市ガスの使用量は、大幅にアップしました。しかし、石油系燃料と都市ガス由来のCO₂ガス発生量を比較した場合、前年出荷重量対比で5.8%の削減となりました。

【地域環境への貢献活動】

- 工場周辺のゴミ拾いを毎月実施しました。

【過去5年間(2003～2007年度)の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	248,695	223,630	235,258	221,538	267,525
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	0.00	27.97	3.23	25.10	100.00
電力の消費量	kwh	6,427,500	6,096,580	7,087,066	6,665,399	6,485,959
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	2,010	1,862	1,845	1,574	0
CO ₂ 排出量	t					7,539
出荷重量	t	6,803	6,700	6,499	6,572	6,834

フジッコワイナリー(株)(生産品目:デザート・ワインなど)

【環境目標の達成状況】

目標		実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で0.5%削減する	➡	前年対比 6.1%増加 ×
食品廃棄物の再利用等の実施率を95%にする	➡	実施率 97.9% ○
電力消費量を前年より出荷重量対比で100%を超えないようにする	➡	前年対比 2.6%増加 ×
重油の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 2.1%増加 ×
一般廃棄物の削減や、工場内及び工場周辺をきれいにする活動を行い、地域環境保全に貢献する	➡	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減する為、洗ビン機の水の使用量を見直し、バルブ調整により必要な量まで絞りました。
- 食品廃棄物の再利用として、生ゴミの肥料化を行いました。
- 電力消費量を削減する為、新規に蛍光灯を設置する際には、高出力型へ変更しました。
- 電力消費量を削減する為、休日の冷蔵庫の運転を見直し、冷蔵ユニットの運転台数を少なくしました。
- ワイン部門で、リユースビンシステムモデル事業へ参加し、引き続きリユースビンを使用した製品を生産しました。

【従業員への教育と啓蒙】

- 従業員に対して社会・環境報告書2007を使用して、環境に関する勉強会を実施しました。

【地域環境への貢献活動】

- 一般廃棄物を削減する為、デザートカップのフィルム抜きガラやビニール袋をリサイクルする活動を行いました。
- 7月～9月まで、当社周辺道路の清掃・除草活動を毎週行いました。
- 甲州市主催の中央道周囲の清掃活動に参加しました。



【過去5年間(2003～2007年度)の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	28,693	27,488	25,739	23,624	26,695
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	78.18	21.67	35.50	100.00	97.90
電力の消費量	kwh	934,020	1,004,730	1,023,570	1,102,482	1,204,524
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	159	184	176	184	200
CO ₂ 排出量	t					1,212
出荷重量	t	2,906	2,905	2,837	3,137	3,341

フジコン食品(株)(生産品目:佃煮・とろろ・漬物)

【環境目標の達成状況】

目標		実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 0.9%増加 ×
食品廃棄物を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 2.2%増加 ×
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 3.3%削減 ○
石油系燃料(灯油・重油)の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	➡	前年対比 9.1%増加 ×
地球環境に優しい活動に取り組む	➡	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するため、佃煮の変形昆布選別に使用する水を流水方式から循環使用方式に変更しました。
- レトルト殺菌機の効率運転を実施しました。
- 水漏れ箇所の点検と修理を行いました。
- 食品廃棄物の削減のため、とろろ昆布の切削くず昆布を粒子化することによる再利用化と漬物ゴミの圧搾による減量を行い、また、佃煮切断工程で生じた変形昆布のとろろ昆布への使用を行いました。
- 電力消費量の節減のため、コンプレッサ更新による集約で運転台数を削減しました。また、原藻倉庫クーラーの運転調整を行うとともに、閑散期には、冷蔵庫、冷凍庫を集約し、使用しない冷蔵庫、冷凍庫の電源を止めました。
- 石油系燃料の使用量を削減するため、ボイラーでつくられた蒸気を効率利用できるよう蒸気もれの修理を行いました。また、ガス抜きボイラーの有効運転を実施しました。
- 地球環境にやさしい活動として、CO2発生量の把握、および製品配送定期便の減便に取り組みました。

【従業員への教育と啓蒙】

- グループ毎に環境負荷削減目標を立て、実行計画書を作成し、計画的に改善に取り組みました。
- 年間教育訓練計画に基づいて教育訓練を実施しました。また、資格認定により、作業者の確認と教育訓練を実施しました。

【地域環境への貢献活動】

- 町内及び地区内で実施しているクリーン作戦への積極的な参加を呼びかけました。また、定期的に会社周辺の清掃活動を行いました。

【過去5年間(2003～2007年度)の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	266,292	291,106	262,457	239,639	234,676
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	0.00	8.72	32.35	39.06	39.33
電力の消費量	kwh	2,767,750	2,892,072	2,611,185	2,524,970	2,370,640
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	386	450	470	421	446
CO ₂ 排出量	t					2,525
出荷重量	t	2,369	2,101	1,859	1,771	1,719

フジッコフーズ(株) (生産品目:デザート・煮豆など)

【環境目標の達成状況】

目標	実績
水の使用量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比 0.9%増加 ×
電力消費量を前年より出荷重量対比で1%削減する	前年対比 1.4%削減 ○
石油系燃料(重油)の使用量を前年より出荷重量対比で0.5%削減する	前年対比 8.6%増加 ×
食品廃棄物以外の廃棄物の再資源化に取り組む	実施 ○
工場周辺幹線道路のクリーン作戦と定期的な工場周囲の美化活動を行う	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 水の使用量を削減するため、昆布煮計量場業務用ラインの水道ホースを細いものに交換しました。
- 水の使用量を削減するため、豆洗浄水の樋をホースにして洗浄箇所を減らしました。
また、煮豆水浸漬の水の量を見直し、使用する水の量を減らしました。
- 電力消費量の削減のため、事務所に扇風機を設置して、エアコンの運転台数を減らしました。
- 調味液タンクの冷却用攪拌機の運転時間をタイマー制御にしました。
- 電力消費量の削減のため、デザート棟のエアコン室外機を水で冷却しました。
- 重油の使用量削減のため、デザート原料グループの温水タンクの温度設定を10月まで45℃→42℃に下げました。
- 重油の使用量削減のため、簡易型スチームトラップ診断機で定期的にトラップ診断を行い、不良トラップの交換時期を早めました。蒸気漏れ箇所を早期に修理しました。
- 今まで廃棄していたデザートカップフィルムの廃棄クズ、破損したナタデココ原料容器をリサイクル業者に販売しました。
- 廃プラ類の分別と処分業者の変更により、RPF(固形燃料)化を行いました。
- 食品残渣の減量化のために、ブドウの絞り機を改造し、ナタデココ残渣の脱水を行いました。



【従業員への教育と啓蒙】

- 廃棄物の分別表を作成し、全従業員へ説明し、分別表を各職場と廃棄物置場へ掲示しました。

【地域環境への貢献活動】

- 境港市の一斉清掃に合せて、工場周辺と国道431号線の清掃活動を行いました。
- 毎日の工場周囲の車道・歩道の落ち葉、ゴミ拾いを実施しました。



【過去5年間(2003～2007年度)の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	217,570	223,876	188,795	176,835	172,460
食品廃棄物の再生利用等の実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	50.53
電力の消費量	kwh	4,428,854	4,099,752	3,797,256	3,525,336	3,360,720
石油系燃料(重油・灯油)の使用量	m ³	1,389	1,276	1,217	1,211	1,272
CO ₂ 排出量	t					5,333
出荷重量	t	8,182	7,999	7,328	7,177	6,780

本社部門

【環境目標の達成状況】

目標		実績
生産本部フロアの電灯・コンセントの電力消費量を前年より、在籍人員対比で1%削減する	➡	前年対比 7.3%削減 ○
生産本部フロアの再生ゴミ比率を1%向上させる	➡	前年対比 0.7%向上 ×
本社周辺の清掃を実施する	➡	実施 ○
朝礼等での環境教育を実施する	➡	実施 ○

【環境負荷低減への取り組み】

- 備品類の購入をグリーン購入に積極的な相手から購入するようにしました。
- 電力使用量を削減するために、クールビズを行いました。
- 可燃ゴミを専用の袋で収集するようになったことに合わせて、分別を徹底するよう広報しました。
- ゴミ回収業者の見直しを行い、リサイクル業者を積極的に採用しました。



【従業員への教育と啓蒙】

- 従業員への環境への意識付けの為に、毎月の電力・水・ガスの使用量について回覧を行いました。
- 行政が推進するチーム・マイナス6%への参加の啓蒙を行いました。

【過去5年間（2003～2007年度）の環境負荷データ】

	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
水の使用量	m ³	9,575	7,844	8,557	10,709	10,470
電力の消費量	kwh	1,205,290	1,217,443	1,270,250	1,339,456	1,529,414
CO ₂ 排出量	t					981

環境保全に関する取り組みの歴史

【取り組みの歴史年表】

1960	神戸市東灘区にて(株)富士昆布創業
1985	(株)富士昆布から現社名フジッコ株式会社へ社名変更 創業25周年を記念、全国に緑の松を植樹「フジッコ松」寄贈活動を開始
1994	フジッコワイナリー 排水処理の汚泥を肥料として出荷開始 関東工場 食品廃棄物の一部を外部にて肥料化
1996	関東工場 嫌気性排水処理施設導入
1997	鳴尾生産事業部 嫌気性排水処理施設導入
1998	和田山工場 嫌気性排水処理施設導入 フジッコワイナリー 焼却炉廃止
1999	和田山工場 焼却炉廃止
2000	環境問題プロジェクトチーム設置
2001	和田山工場 ISO14001認証取得 東京生産事業部 ISO14001認証取得 東京生産事業部 嫌気性排水処理施設導入 関東工場 焼却炉廃止 フジッコワイナリー 糖廃液を肥料の発酵促進剤として出荷開始 フジコン食品 焼却炉廃止(全工場で小型焼却炉廃止)
2002	フジコン食品 ISO14001認証取得 フジッコフーズ 嫌気性排水処理施設導入 生産本部 環境管理委員会設置
2003	フジコン食品 嫌気性排水処理施設導入 「2003環境報告書」発行(以降、毎年発行) 和田山工場 食品廃棄物を外部にて100%肥料化
2004	関東工場 コージェネレーションシステム導入
2005	フジッコフーズ(株) ナタデココ脱水機導入
2006	鳴尾生産事業部 灯油およびLPGを燃料とする設備を天然ガスに転換
2007	横浜工場 LPGを燃料とする設備を天然ガスに転換

【地域環境への貢献活動】

工場からの排水は、全工場排水処理施設により処理しております。

また、より省エネルギーで運転でき、余剰汚泥の減少ができる嫌気性排水処理施設を鳴尾生産事業部、和田山工場、関東工場、東京生産事業部、フジコン食品(株)、フジッコフーズ(株)に導入いたしました。

【焼却炉の廃止】

小型焼却炉を使用してゴミを焼却した場合、健康に悪影響を及ぼすダイオキシンが発生する恐れがありますので、2001年度に全ての工場の小型焼却炉を廃止いたしました。

【ISO14001認証取得】

2001年9月に、煮豆・佃煮業界では初めて和田山工場、東京生産事業部がISO14001の認証を取得いたしました。また、2002年には、フジコン食品(株)がISO14001の認証を取得いたしました。



<http://www.fujicco.co.jp/>

問い合わせ先

〒650-8558 神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
フジッコ株式会社 経営企画室 Tel 078-303-5921